

## 症例 1

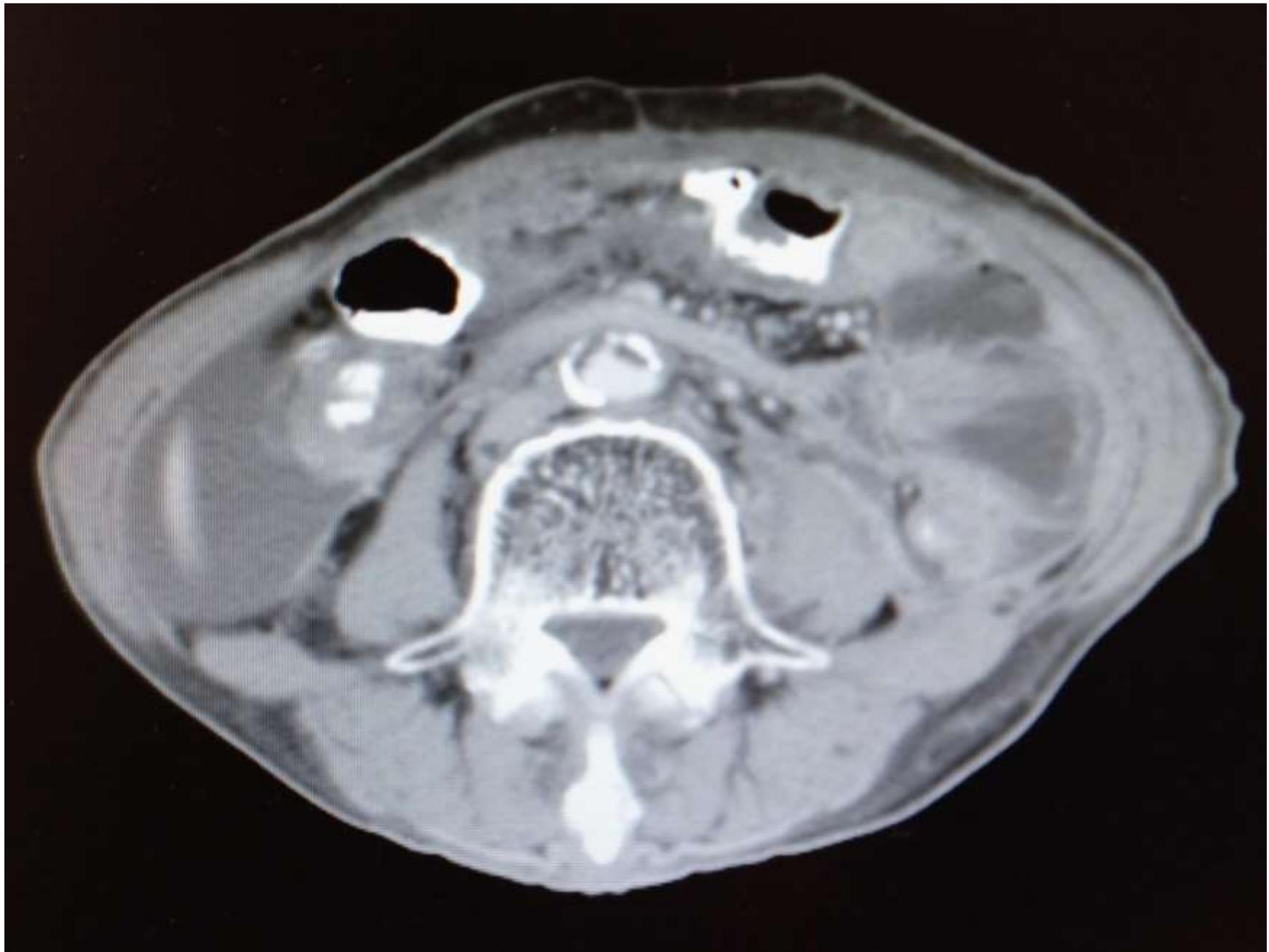
患者:60代 男性

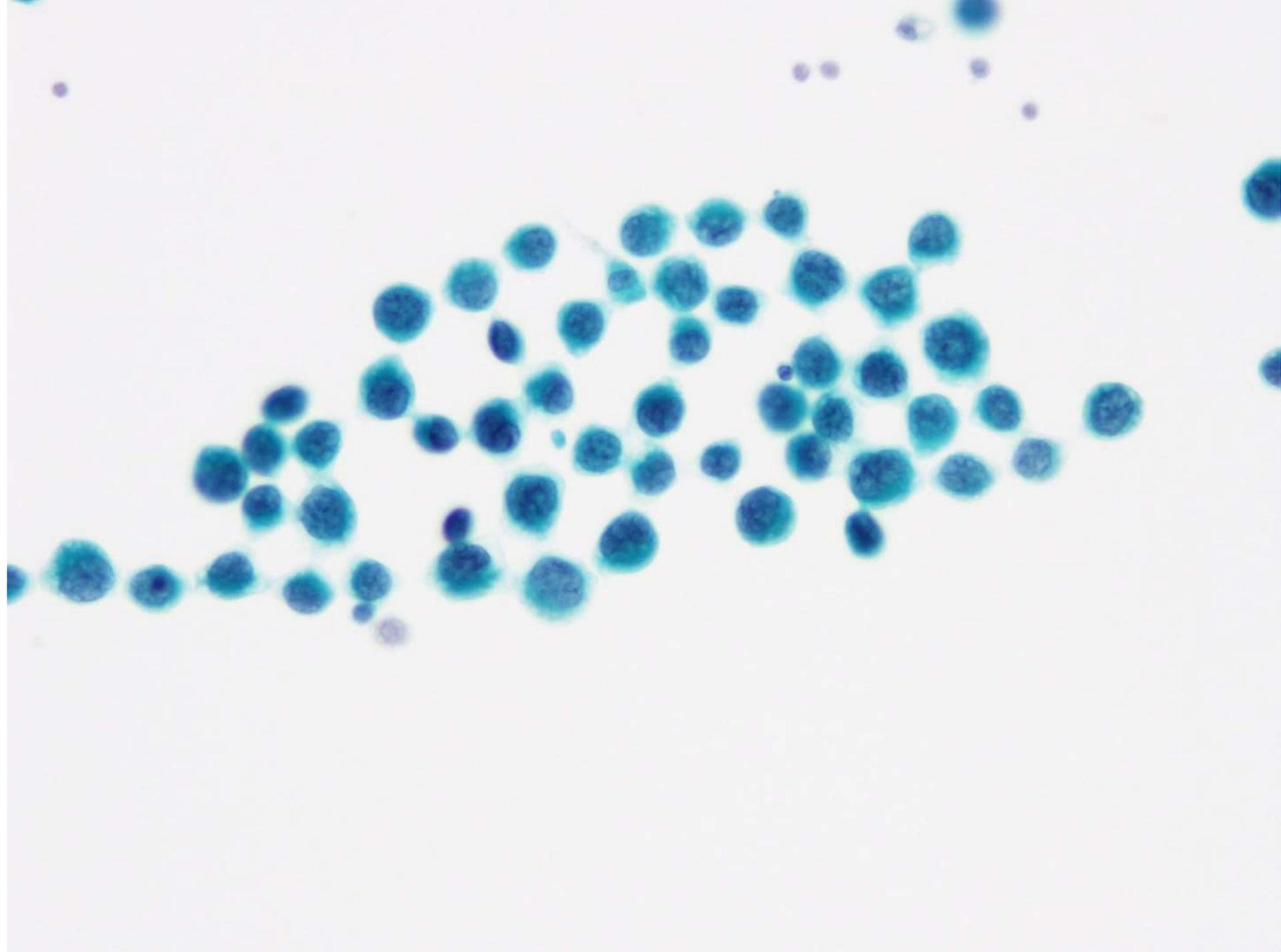
現病歴:食欲不振、吐気・嘔吐があり来院。CTにてイレウスが疑われ、イレウス管挿入し狭窄部位確認のため造影したところ、穿孔が判明したため小腸切除術施行。術後の経過は良好であったが、数か月後ふたたび食欲低下が見られたため上部消化管の内視鏡施行し、幽門部が狭窄し通過障害が見られた。狭窄の原因究明のためCTを行ったところ、腹腔内に軟部影、小結節影が認められ、少量の腹水が貯留していた。癌性腹膜炎が考えられたため、腹水を採取し細胞診が提出された。

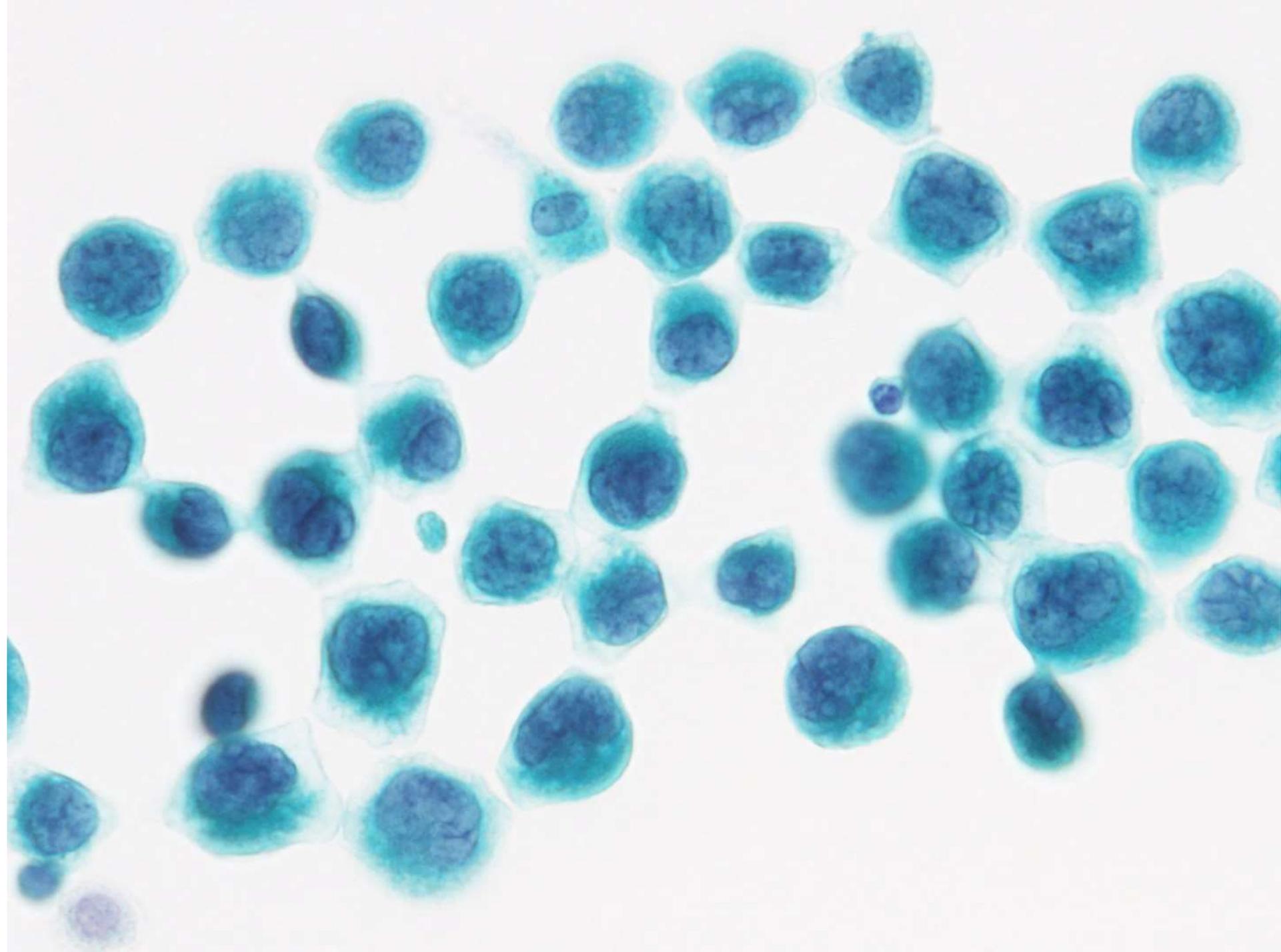
検体:腹水

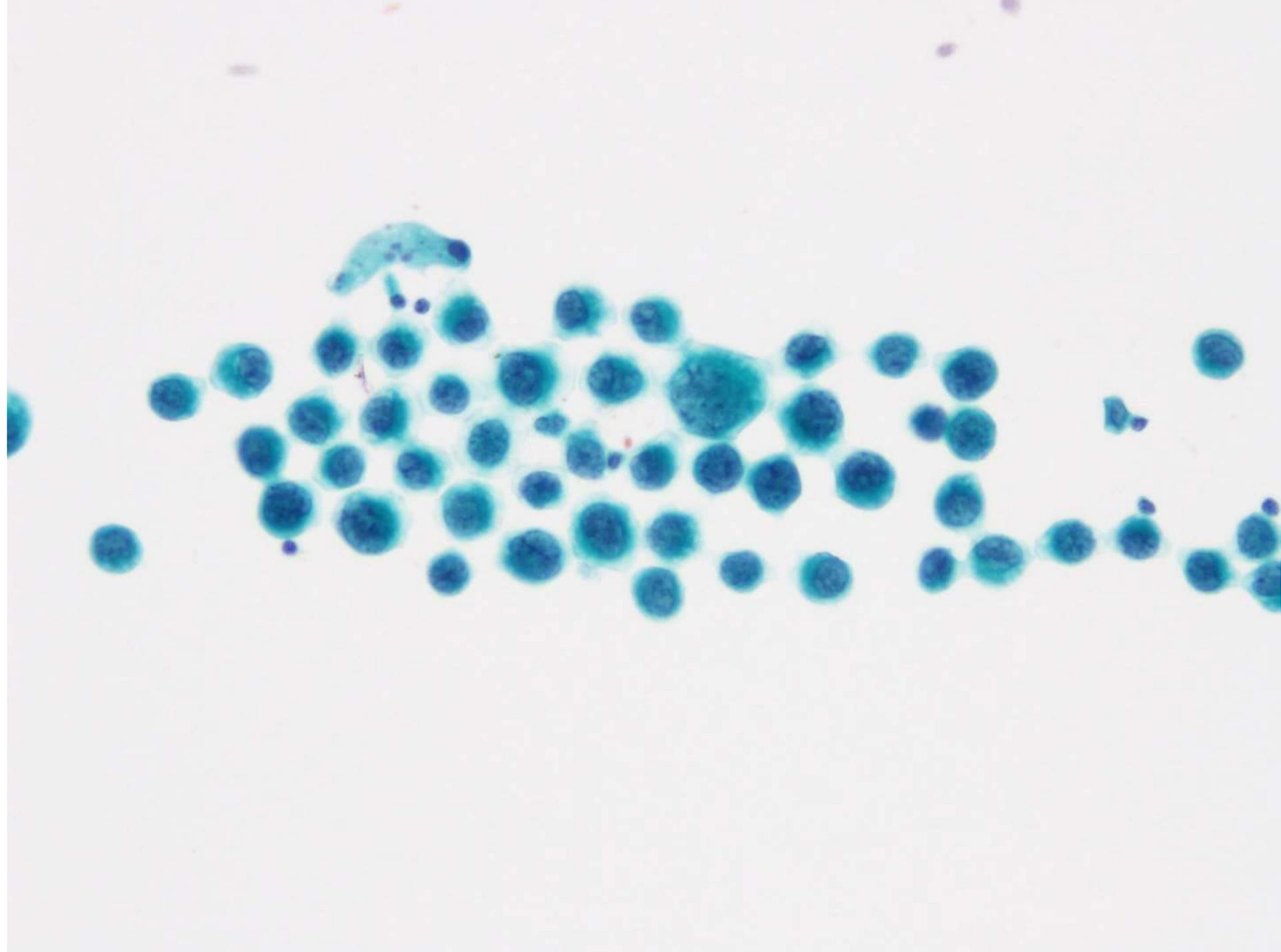
選択肢

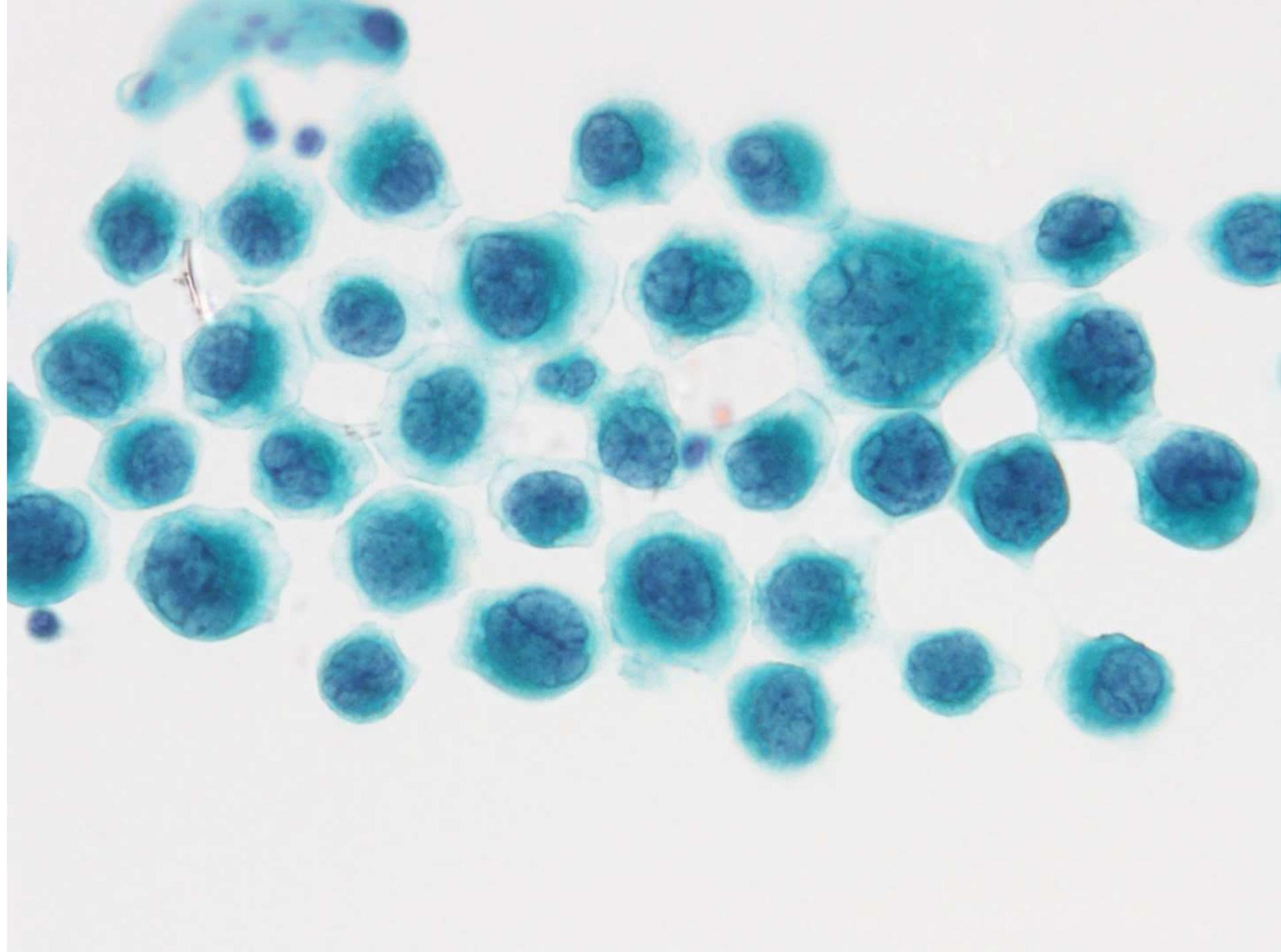
1. 反応性中皮
2. 扁平上皮癌
3. 腺癌
4. 尿路上皮癌
5. 悪性中皮腫
6. 悪性リンパ腫
7. 多発性骨髄腫

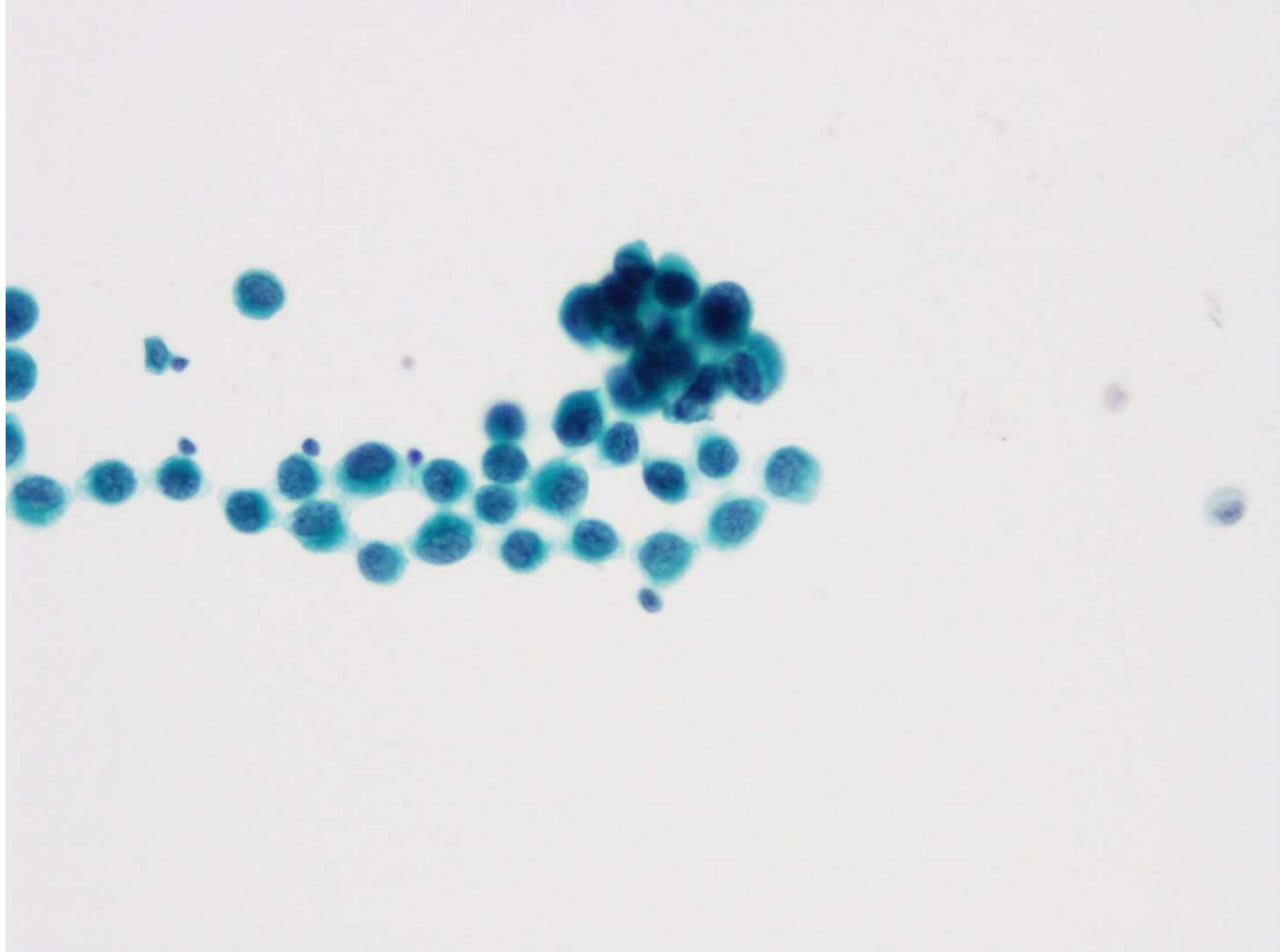


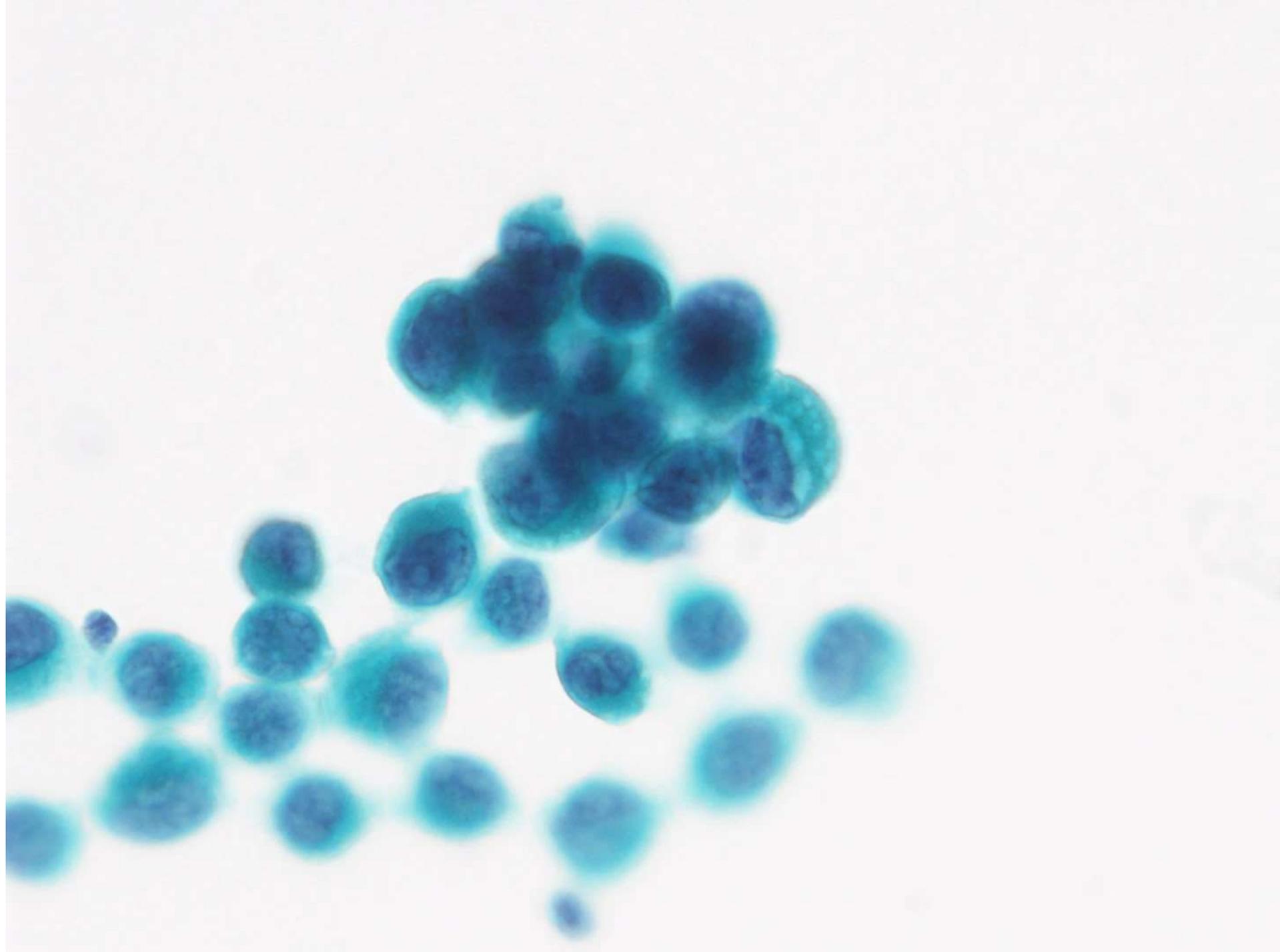


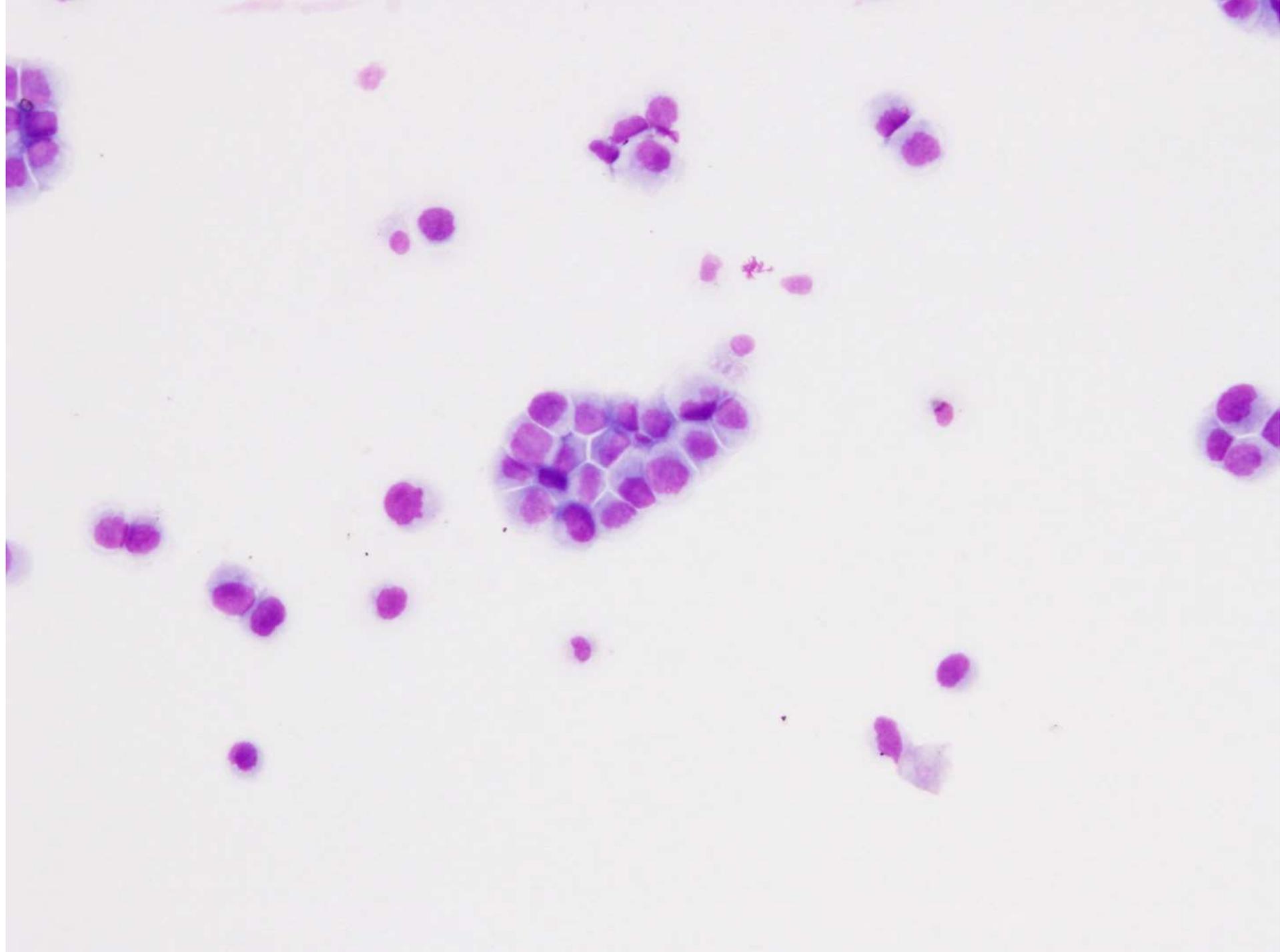


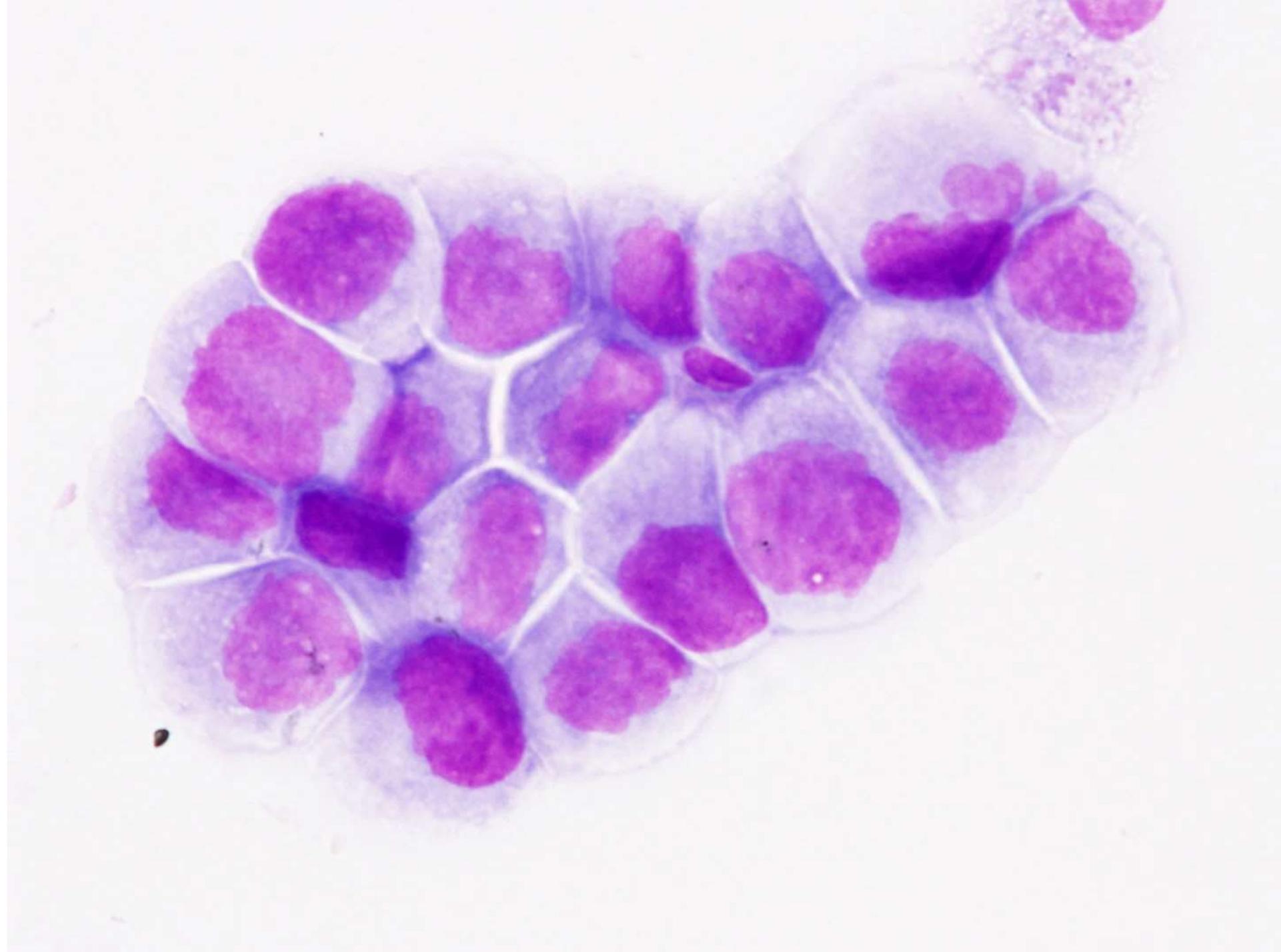


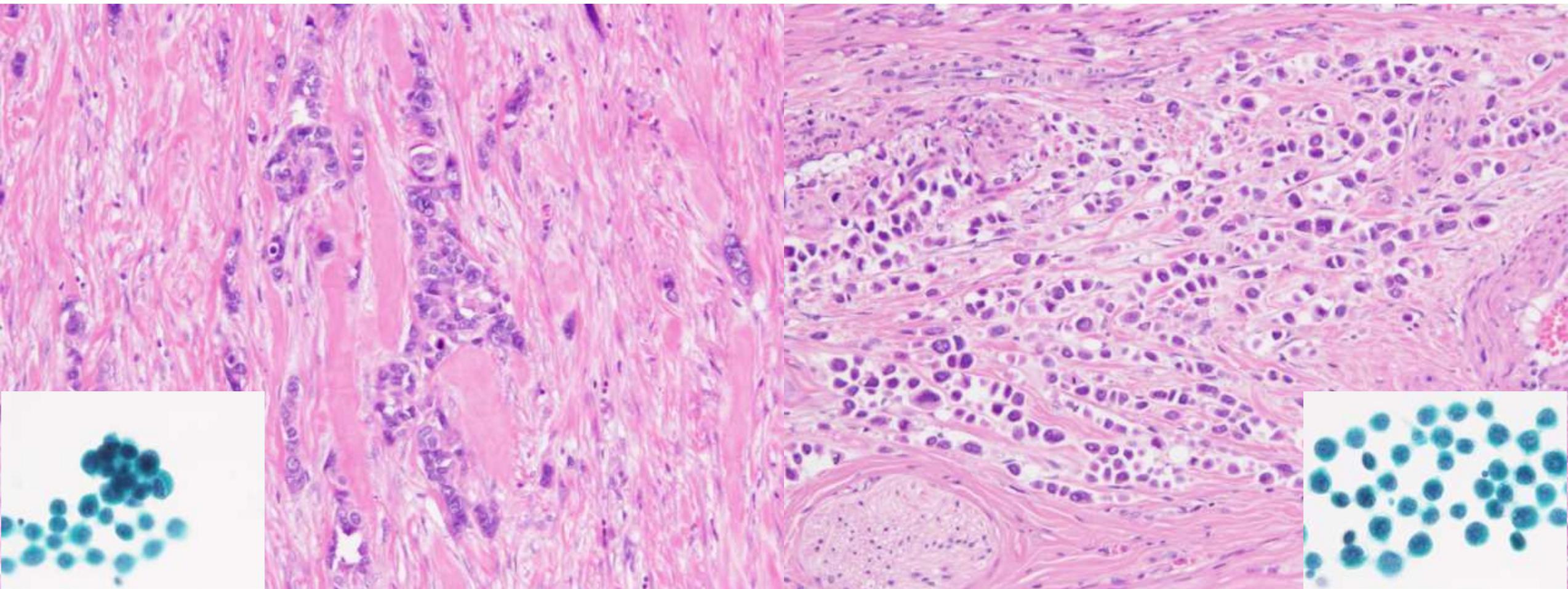




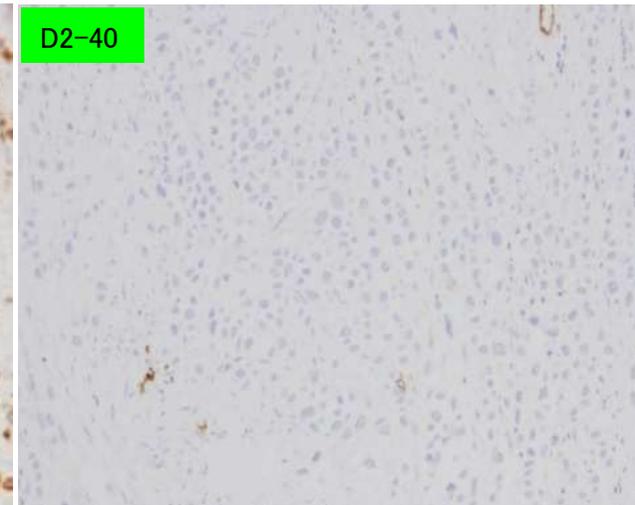
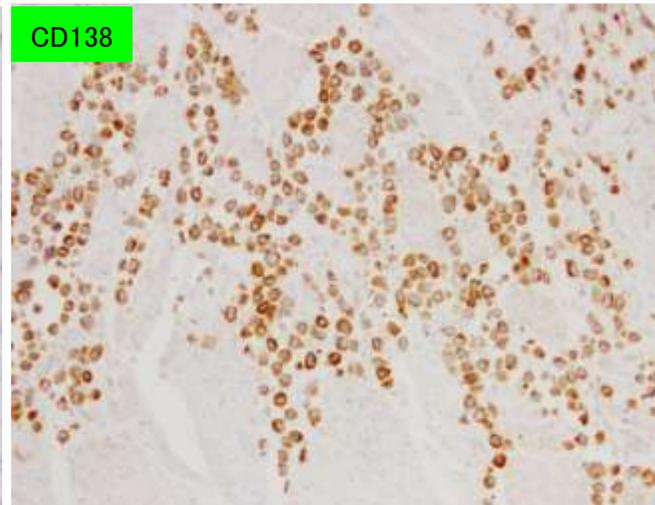
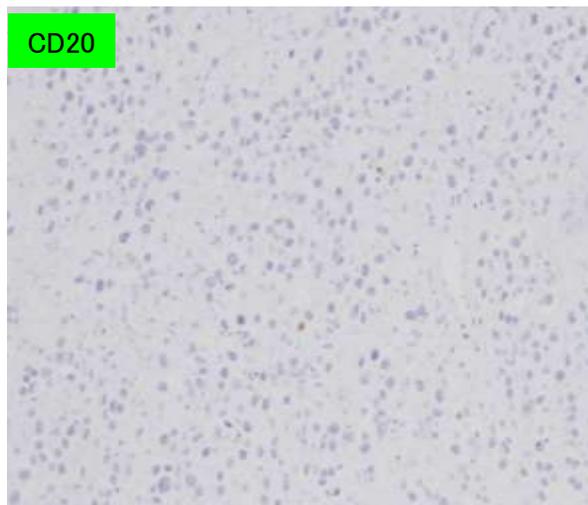
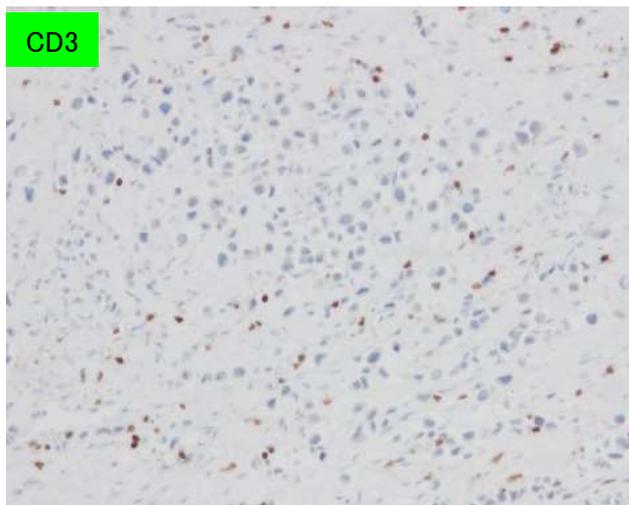
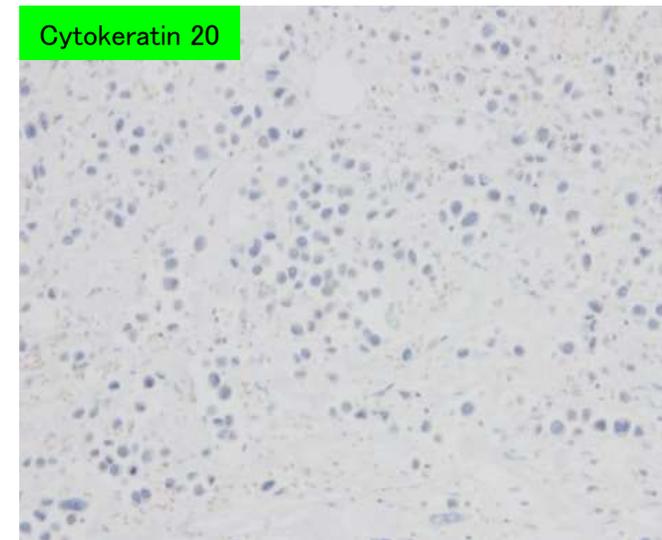
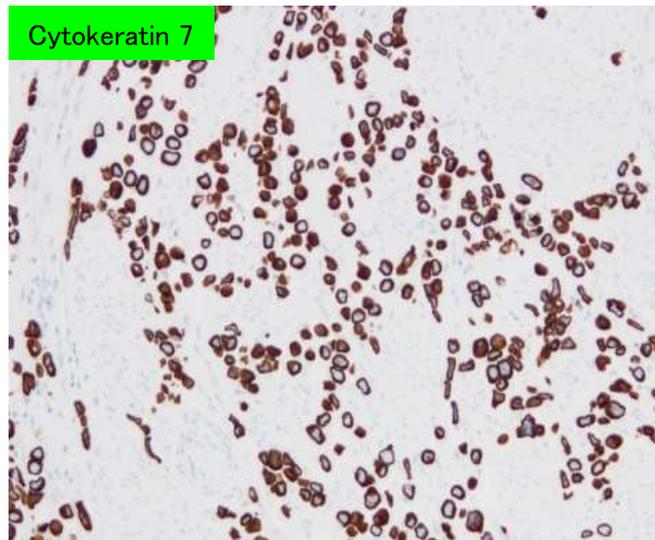
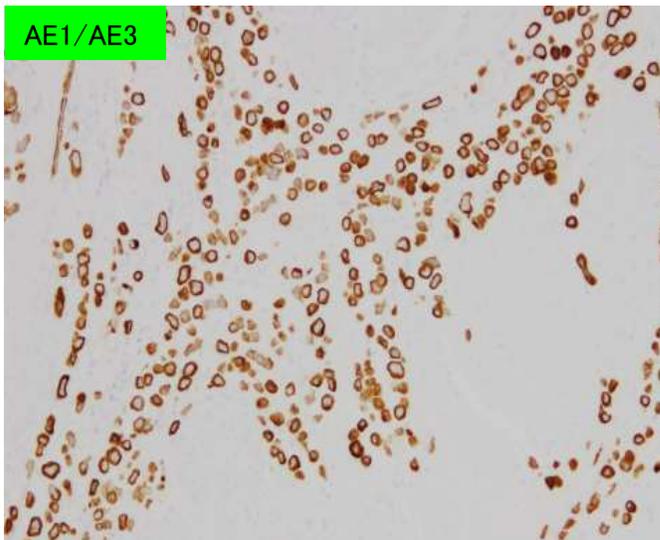




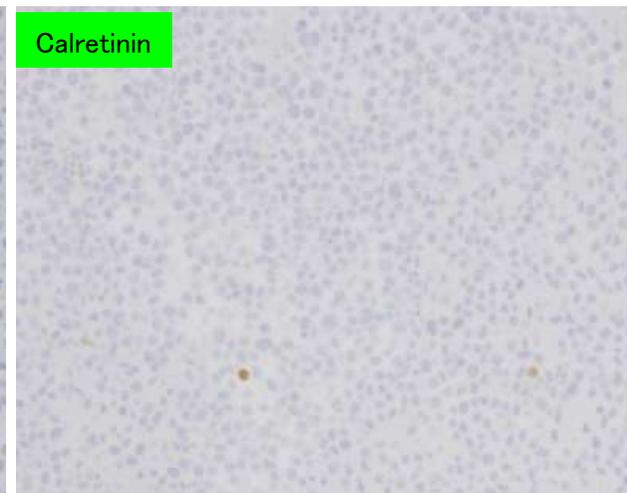
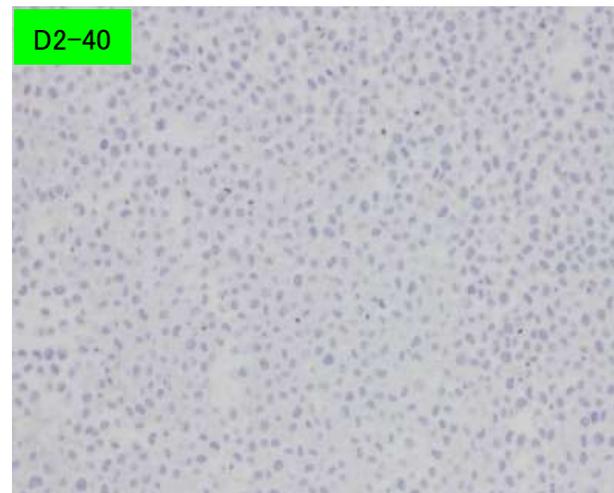
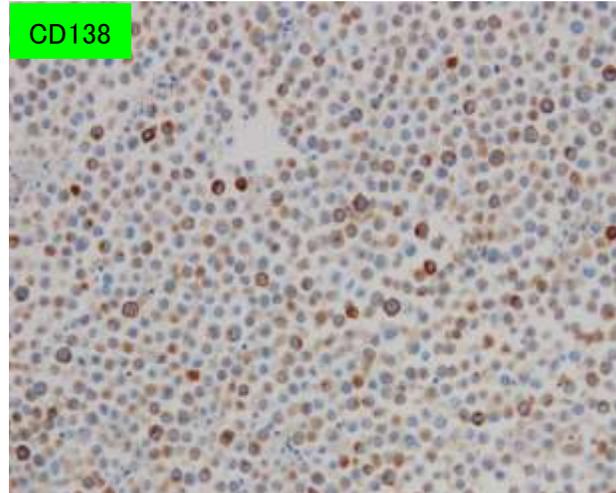
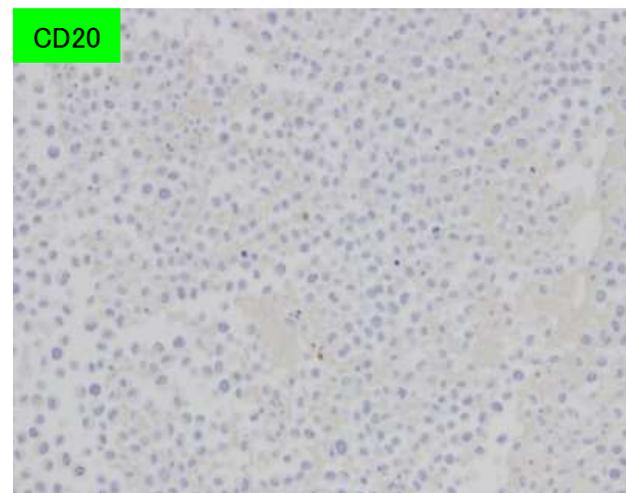
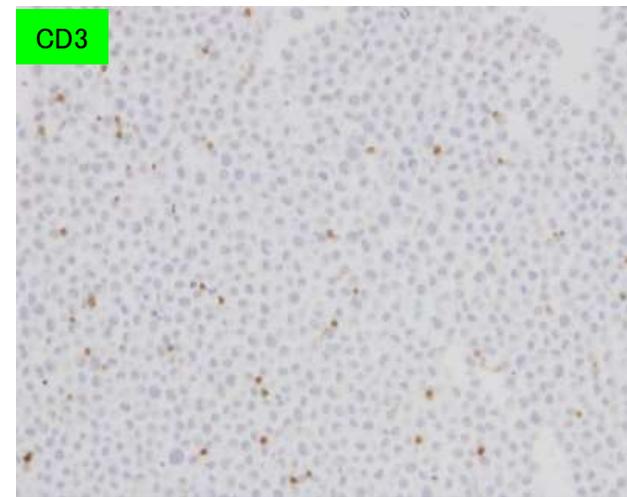
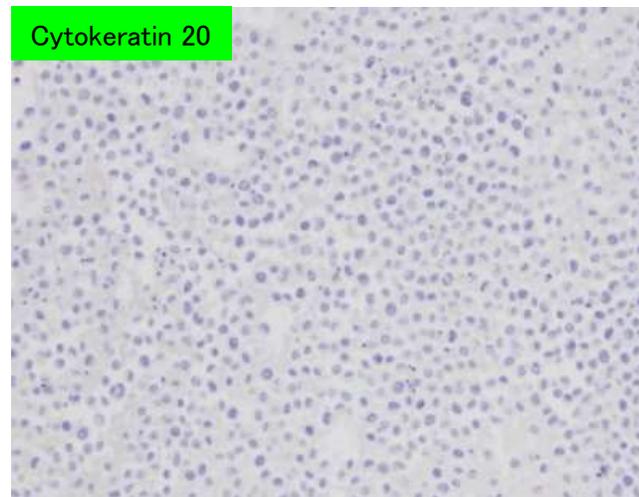
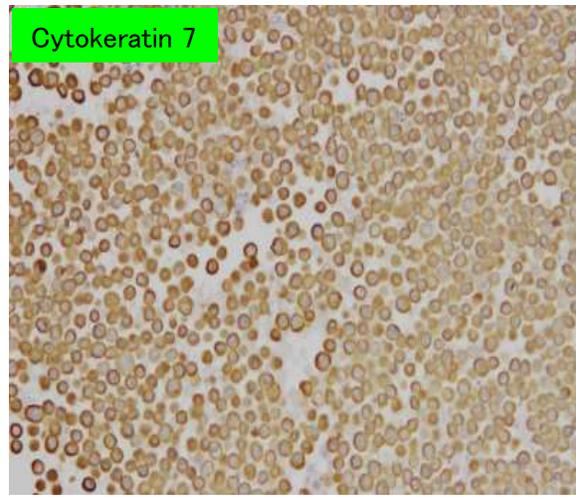
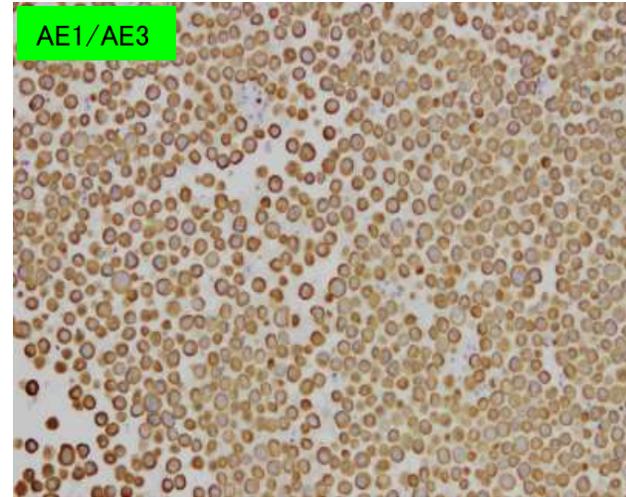




# Invasive urothelial carcinoma, lymphoma-like/plasmacytoid variant



# セルブロック



項目	組織	セルブロック
AE1/AE3	(+)	(+)
Cytokeratin 7	(+)	(+)
Cytokeratin 20	(-)	(-)
CD3	(-)	(-)
CD20	(-)	(-)
CD138	(+)	(+)
D2-40	(-)	(-)
Calretinin		(-)

## 症例 1

患者:60代 男性

現病歴:食欲不振、吐気・嘔吐があり来院。CTにてイレウスが疑われ、イレウス管挿入し狭窄部位確認のため造影したところ、穿孔が判明したため小腸切除術施行。術後の経過は良好であったが、数か月後ふたたび食欲低下が見られたため上部消化管の内視鏡施行し、幽門部が狭窄し通過障害が見られた。狭窄の原因究明のためCTを行ったところ、腹腔内に軟部影、小結節影が認められ、少量の腹水が貯留していた。癌性腹膜炎が考えられたため、腹水を採取し細胞診が提出された。

検体:腹水

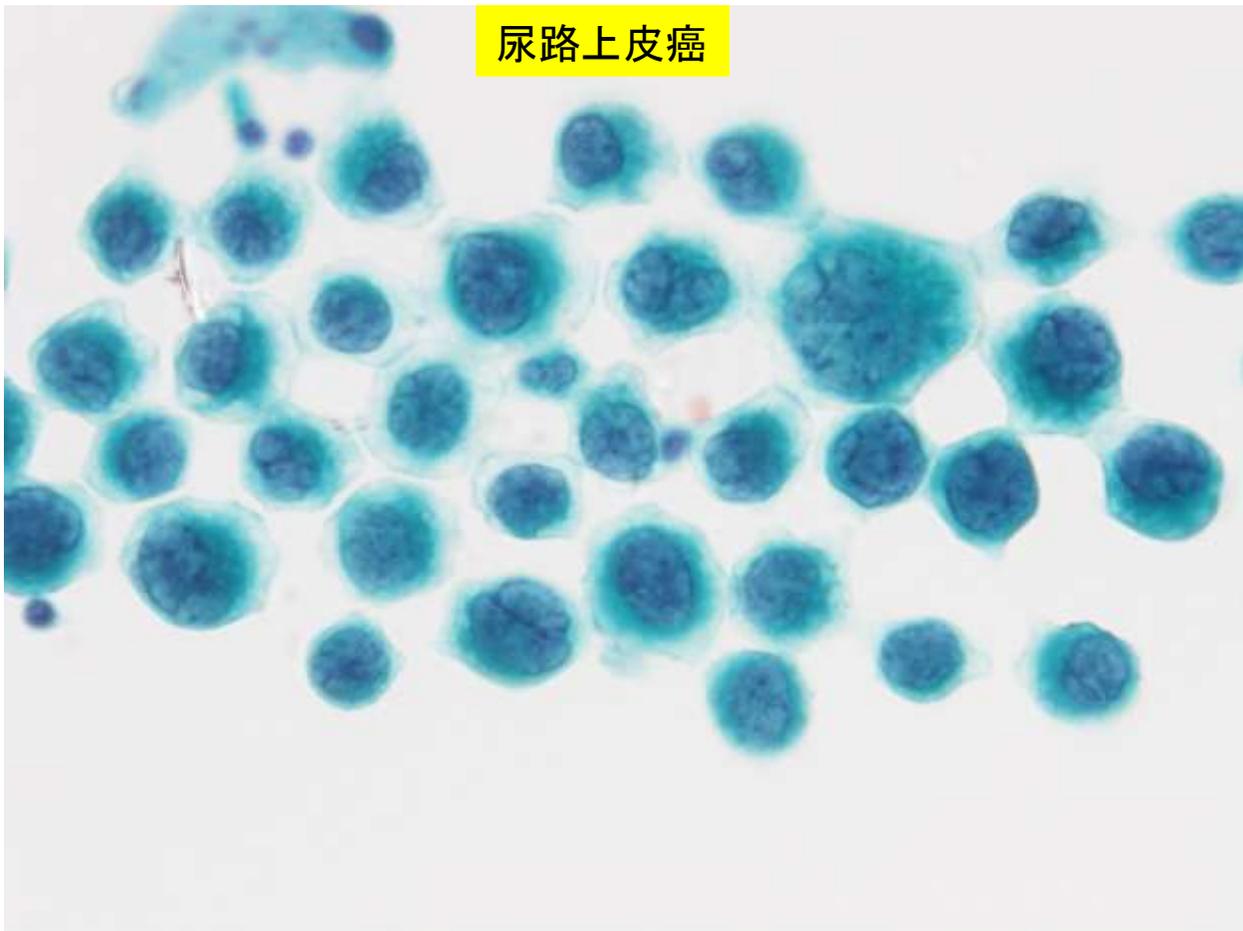
選択肢

1. 反応性中皮
2. 扁平上皮癌
3. 腺癌
4. 尿路上皮癌
5. 悪性中皮腫
6. 悪性リンパ腫
7. 多発性骨髄腫

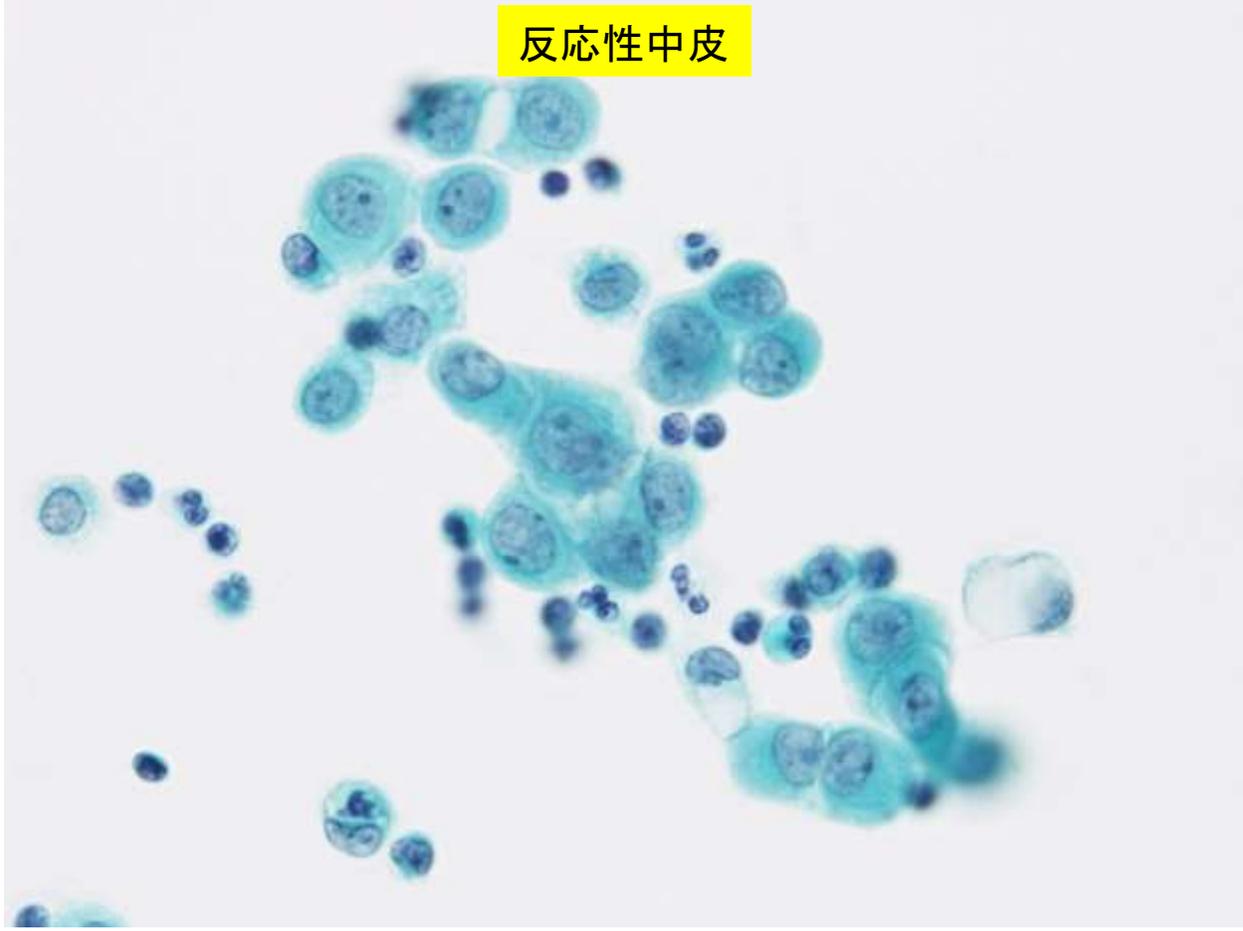
## Invasive urothelial carcinoma, lymphoma-like/plasmacytoid variant 浸潤性尿路上皮癌リンパ腫様型/形質細胞様型

- 浸潤性尿路上皮癌の特殊型で、その他に扁平上皮への分化を伴うもの、腺上皮への分化を伴うもの、栄養膜細胞への分化を伴うもの、胞巣型、微小嚢胞型、微小乳頭型、リンパ上皮腫様型、肉腫様型、巨細胞型、明細胞型、脂肪細胞型がある。
- 淡明から好酸性細胞質と中心性または偏在性の核を有する、一見形質細胞様の形態を示す尿路上皮癌。
- 腫瘍細胞の結合性は緩く、びまん性または弧在性に浸潤・増殖する。
- 膀胱周囲組織へ浸潤が多く、腹膜浸潤や切除断端陽性リスクが高い。
- 予後不良で高い再発率と死亡率に関連する。
- 免疫染色でサイトケラチン陽性、CD138陽性、E-cadherin消失が有用である。

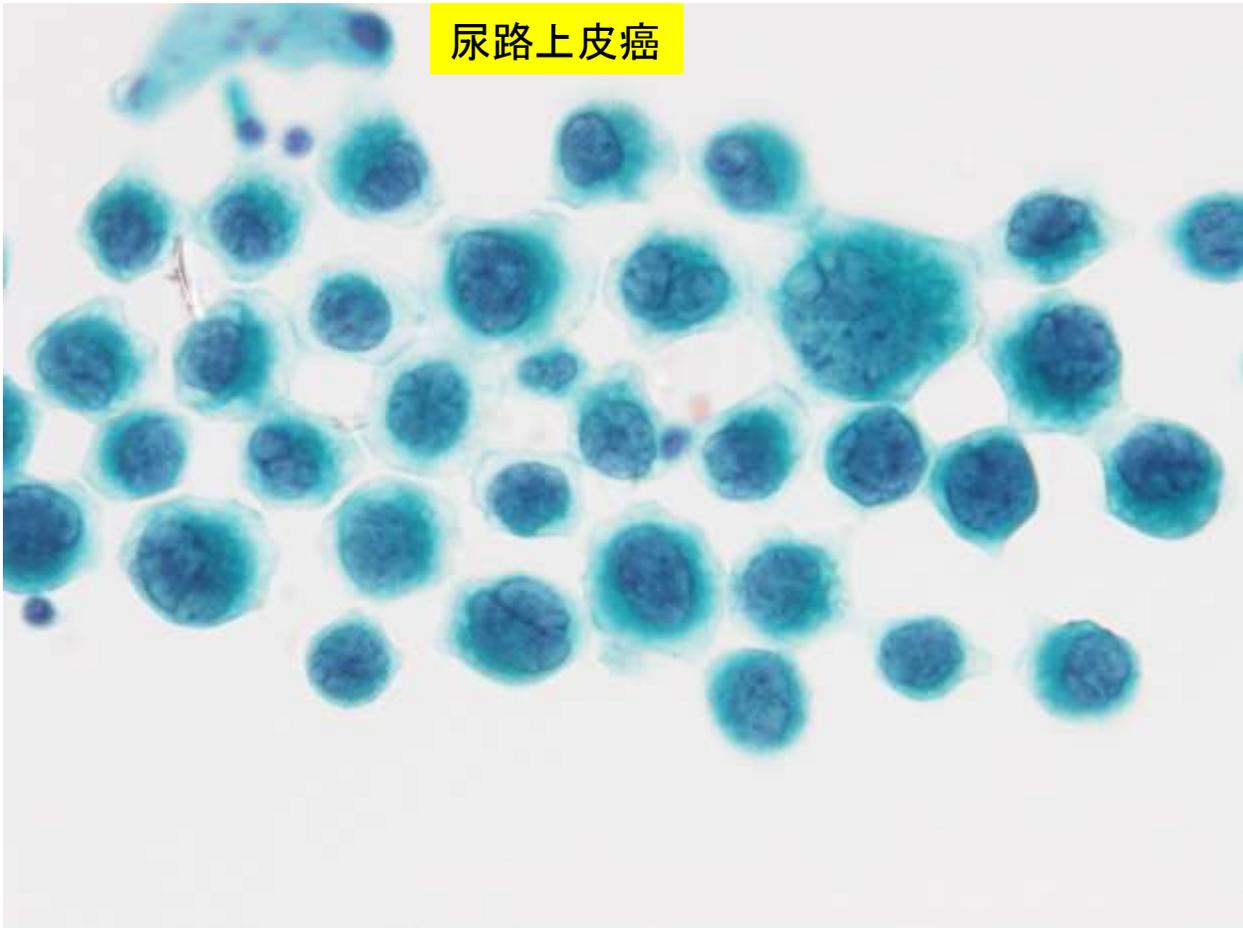
尿路上皮癌



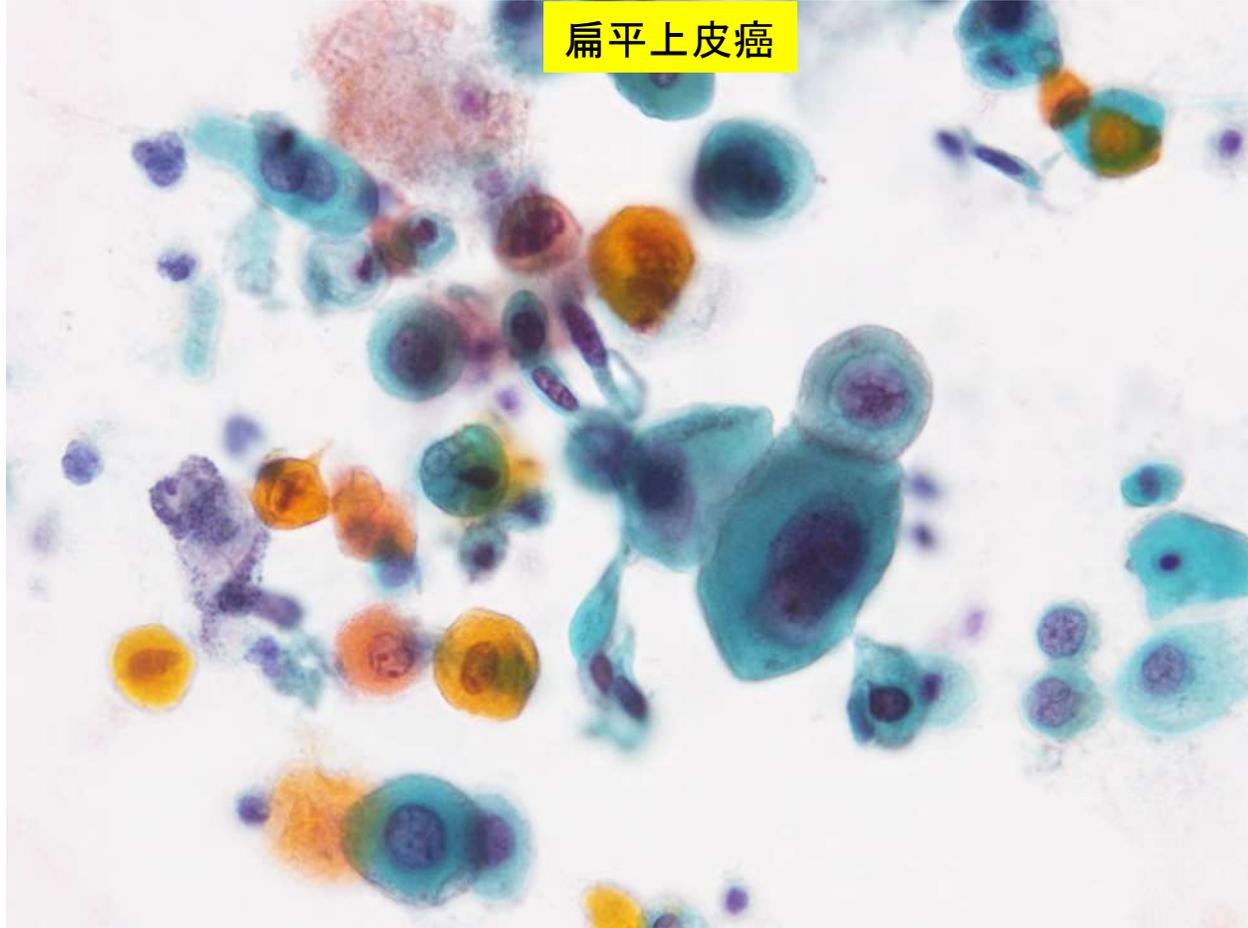
反应性中皮



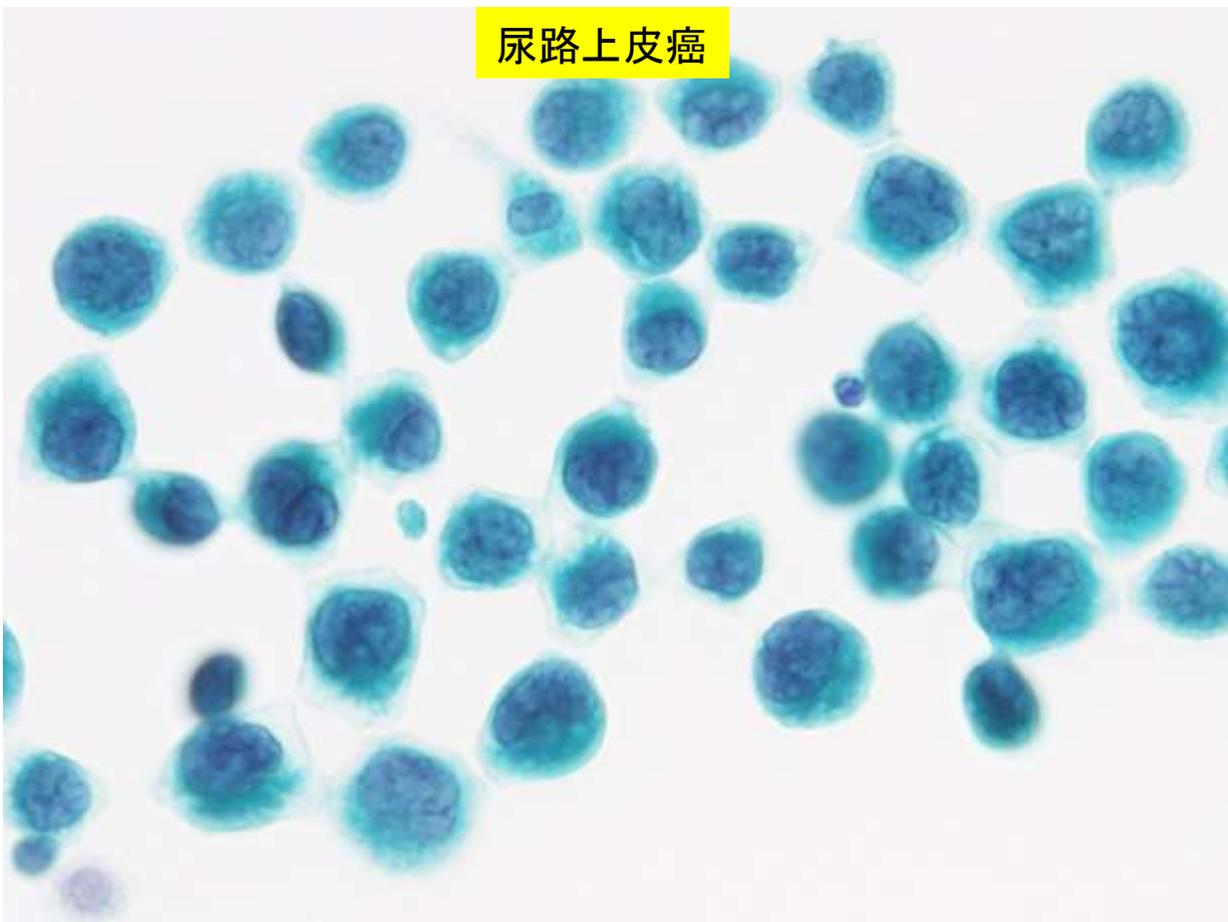
尿路上皮癌



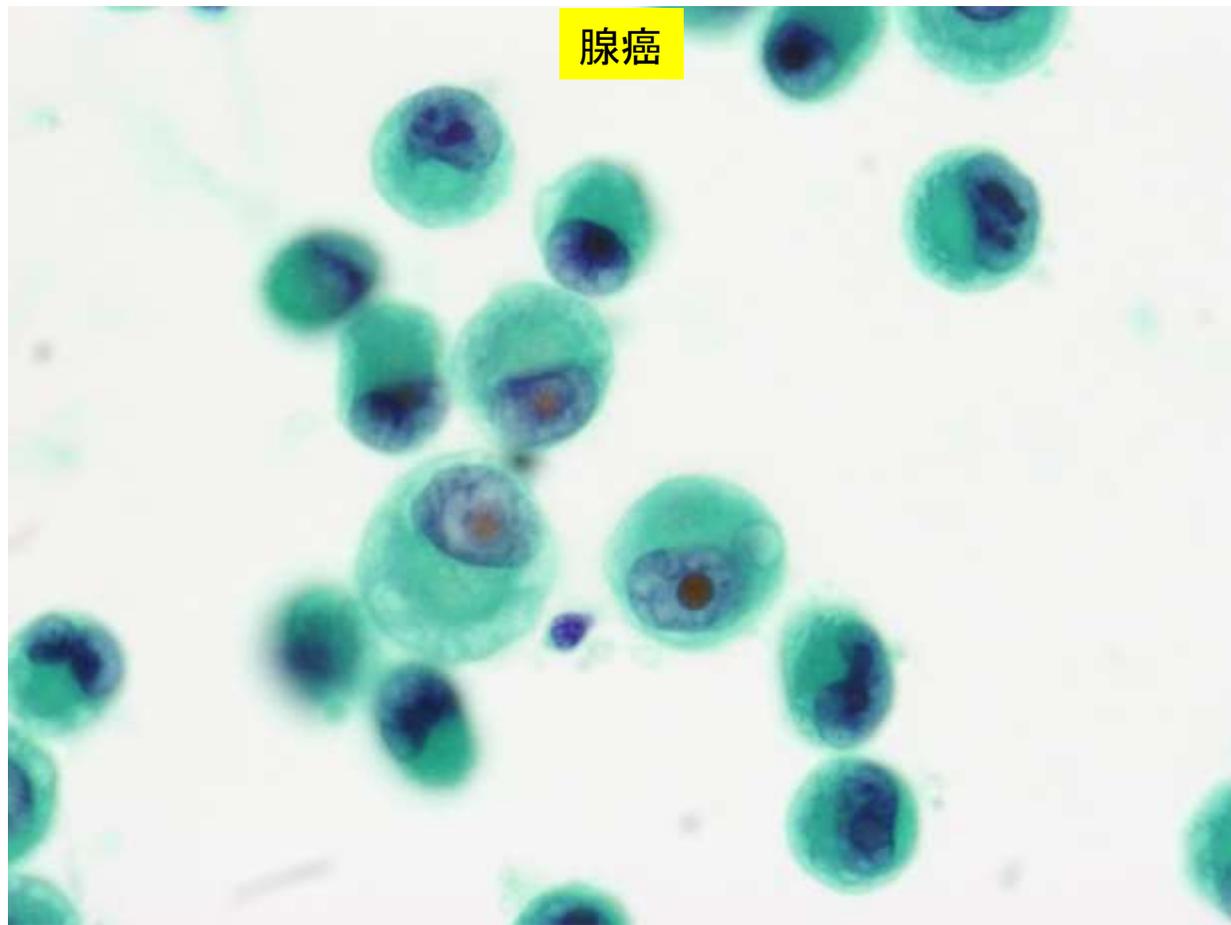
扁平上皮癌



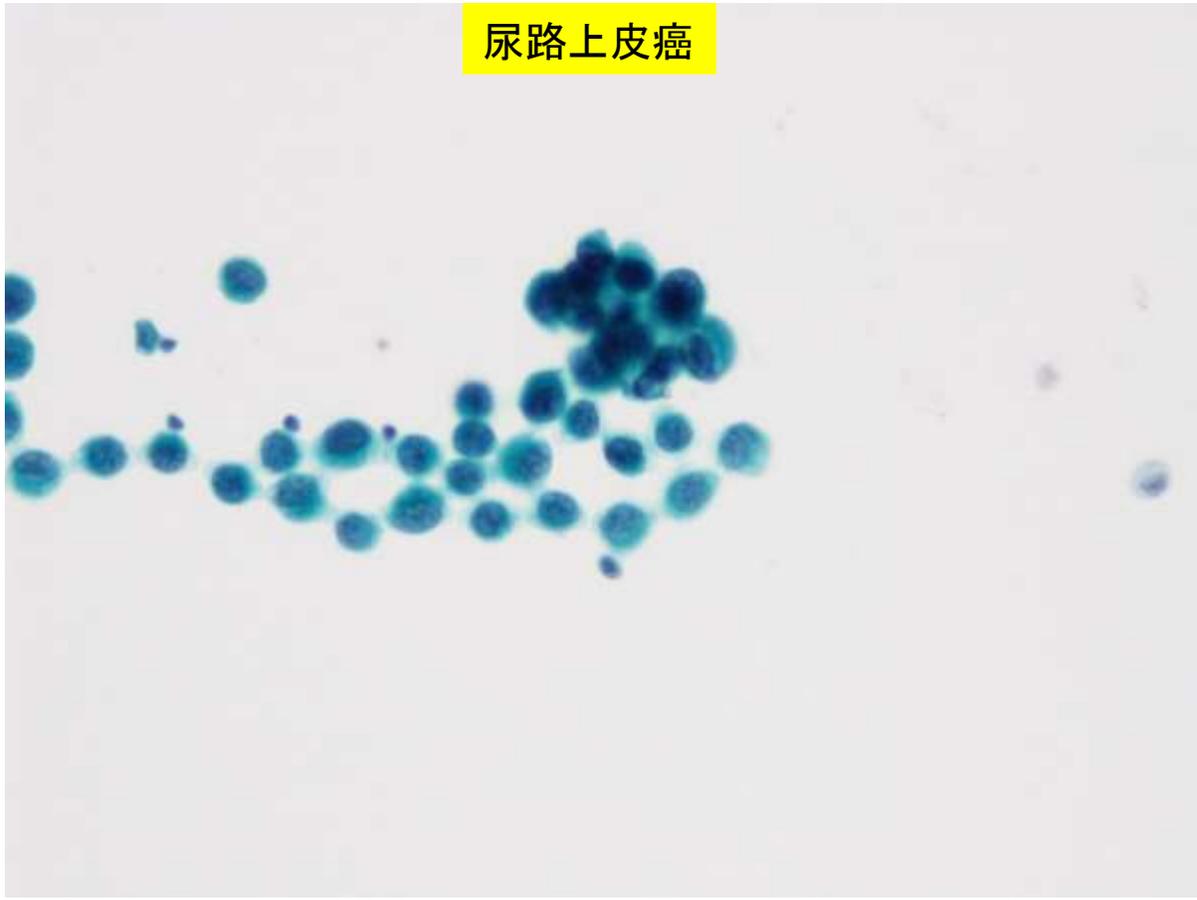
尿路上皮癌



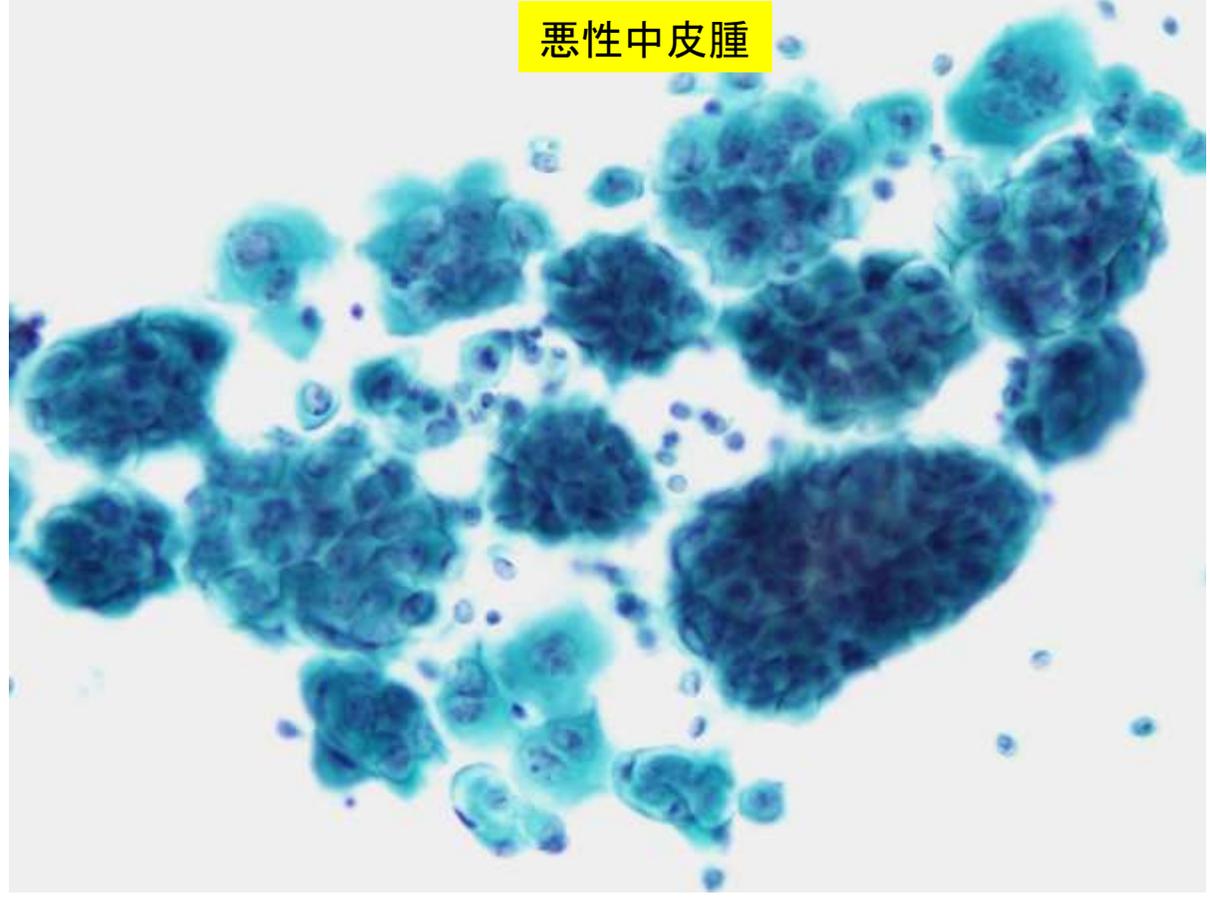
腺癌



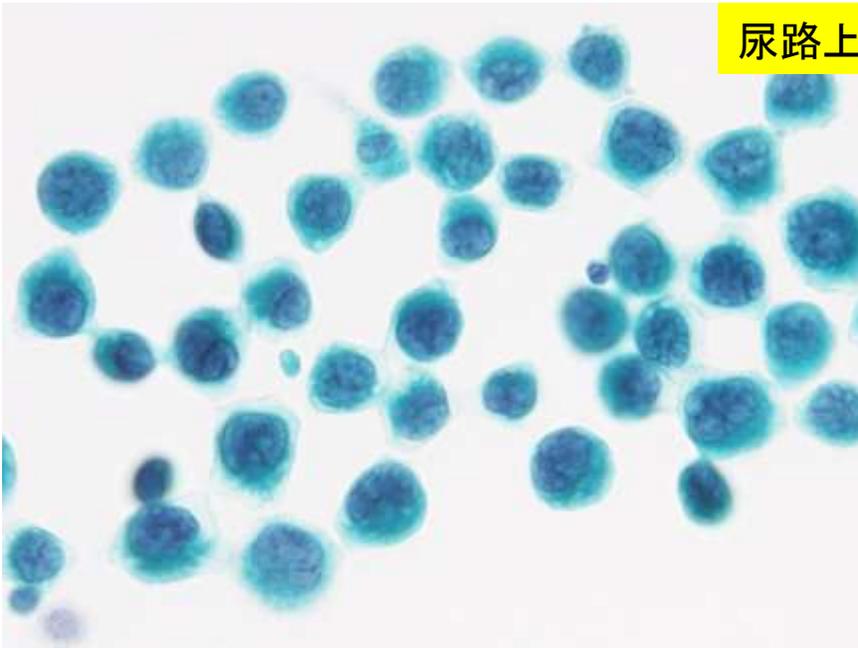
尿路上皮癌



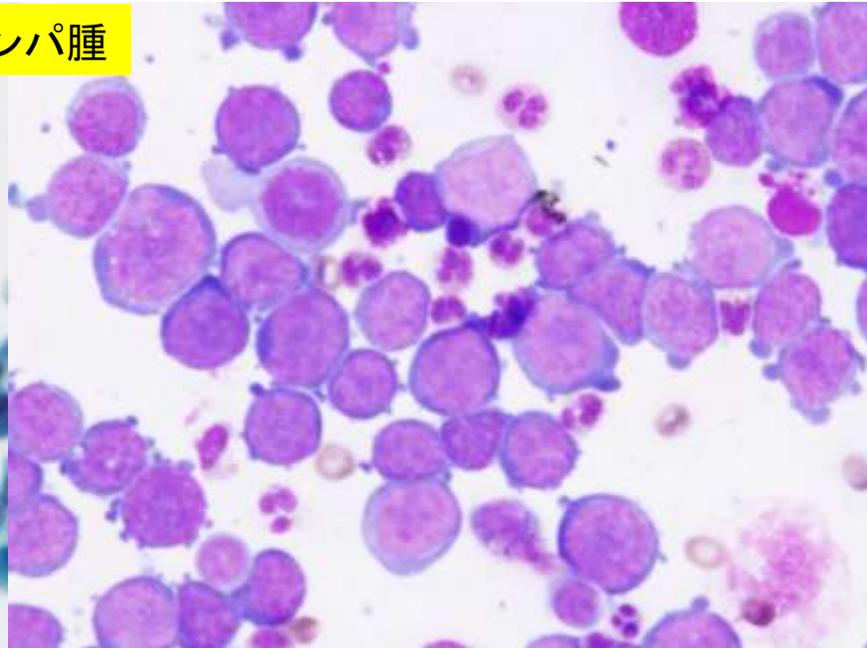
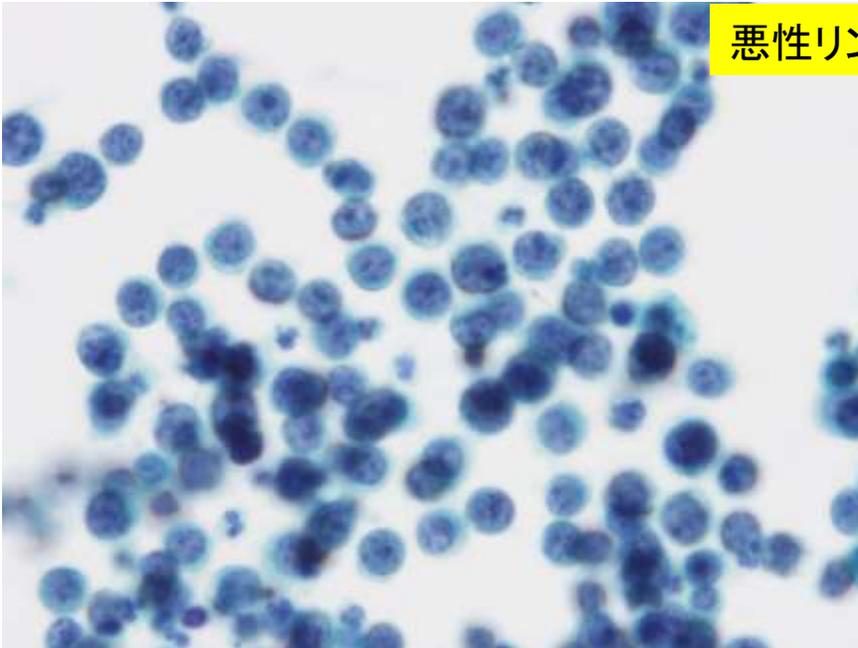
恶性中皮腫



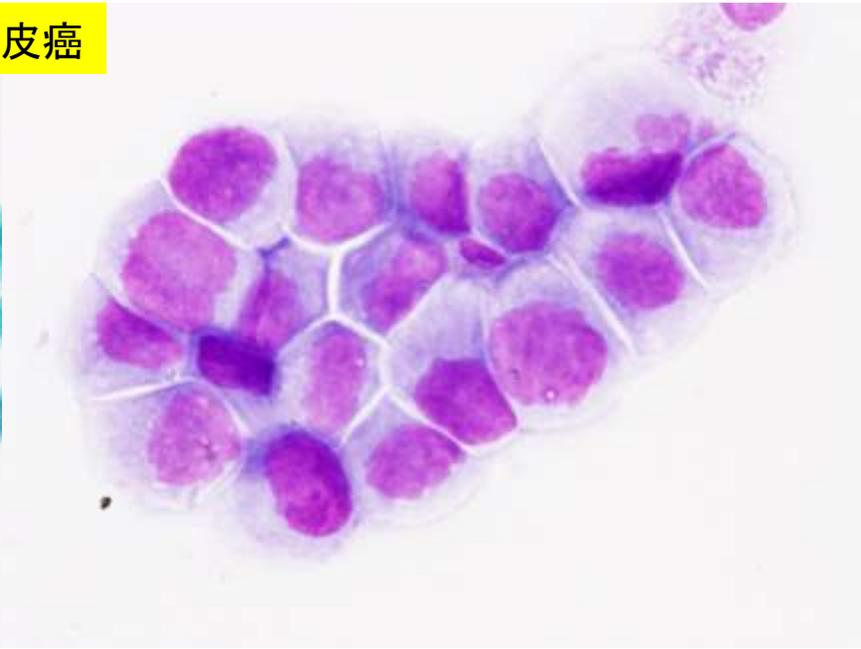
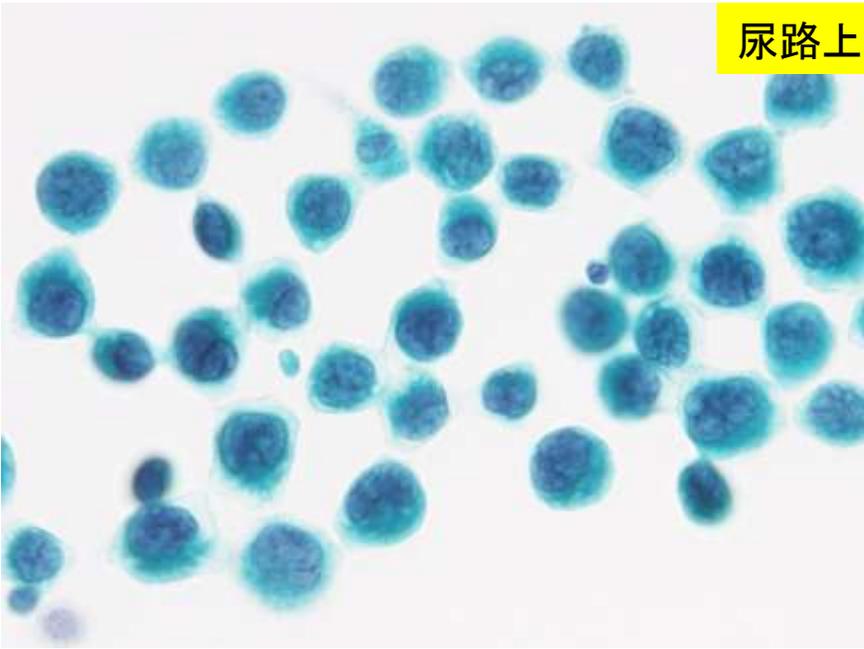
尿路上皮癌



悪性リンパ腫



尿路上皮癌



多発性骨髓腫

